

選ばれる運送業者になるために 荷主企業の声に注目

運送業界は変革期を迎えています。では、荷主企業はこれをどのように捉えているのか？
船井総研ロジ株式会社では、荷主企業を対象に定期的にセミナーを開催するほか、アンケート
や面談を実施しています。そこで今回は、荷主企業の生の声から見えてきた、今、運送事業者に
求められているものについて同社の渡辺庸介氏に解説してもらいます。

荷主企業が求める3つのキーワード

昨今、ドライバー不足による車両不足や運賃改定の動きから、荷主企業が運送事業者に求めているのは、次の3点になります。

ひとつめは、『取引内容の見直し』。運送事業者からさまざまな条件変更が提案される中、荷主企業内では「その提案は妥当なのか？」という声が上がりに始めています。

次に『安定供給』。ますます増える荷物の量に対して、トラック不足の発生を懸念しています。今後、「トラックの安定的な確保」を荷主企業は求めてくるでしょう。最後は『安定稼働』です。前述の安定供給のために、それを支える“安定して稼働する環境づくり”を要求してきます。

運送事業者は要求に応え、ピンチをチャンスに

荷主企業では前述の『取引内容の見直し』『安定供給』『安定稼働』の要求に応えてくれる運送事業者を探すために、下記のような動きをとっています。

①物流サービスを比較し取引内容を精査

自社の配送業務を依頼できる新規の運送事業者を探し、同一条件下で物流サービスを比較。既存の取引内容の妥当性を精査しています。

②自社便比率のチェック

運送事業者を選ぶ上で重視しているのが、『自社便比率』の高さです。繁忙期などに一番信頼できるのが、自社で車両とドライバーを保有している運送事業者になります。一方で『自社便比率』の低い運送事業者では、いざという時の信頼性は乏しくなります。

③財務状況の把握

運送事業者の経営内容については、財務面を精査します。突然の財務難により活動停止するリスクを包含していないかを確認するためです。

④方針が合致する運送事業者を選択

変革期の今、運送事業者の選択はその会社の方針を重視しています。「増車するのか?」「ドライバー採用はどのように考えているのか?」「どの分野(荷物)に集中するのか?」といった点を考慮し、方向性が合致する運送事業者を選びます。

荷主企業は自社の改善を図るために、さまざまな要望を出してくるでしょう。しかし、運送事業者の皆さんはこれらの“荷主企業の視点”を事前に把握しておくことで、先手を打つことが可能になります。運送業界の変革は、新規開拓の大きなチャンスといえます。既存の荷主企業に対して関係を深め、新規取引提案に取り組んでみてください。